次世代継承に関する研究　研究成果報告①

はじめに

浄土宗総合研究所では平成20年度より平成27年度まで、「過疎地域における寺院に関する研究」を行った。過疎地域にある浄土宗寺院への聞き取り調査やアンケート調査を通じて実態を把握するとともに、寺院の取り組み事例を収集した。その成果として『成果報告書④　過疎地域における寺院に関する研究』（浄土宗総合研究所、2017、3）を上梓した。また研究を通じて収集された各寺院の取り組み事例を『いきいきお寺事例集　てら活のススメ』（寺院問題検討委員会、2015、8）としてまとめ、『宗報』同封で浄土宗寺院に配布された。

この研究を通じて確認されたのは、葬儀や法事の簡略化・縮小化、檀信徒居住範囲の拡散による寺檀関係の希薄化、特に人口流出地域における離檀や墓地の継承問題、地域の人々や住職の高齢化による寺院活動の停滞化など深刻な問題が過疎地域に生じていることであった。

研究対象は「過疎地域」という限定的な地域であったが、この研究から見えてきたことは、過疎地域における寺院で生じている諸問題は、近い将来全国的に生じる先見事例であろうことである。なぜなら、これら諸問題は、地域住民（檀家）減少と高齢化、檀家範囲の拡散化によるところが大きいと考えられ、今後、人口減少社会に突入した日本社会全体に生じうる問題だからである。

また当研究所では、平成24、25年度において、「祭祀・信仰継承問題研究」を行った。特に現代における墓地の継承問題について焦点を当てて研究を行ない、家族形態の変化に伴う墓地の多様化、また今後の墓地継承において生じる問題点を整理し、これらの問題・課題に対応すべく寺院墓地および共同墓の「使用約款ひな形」を作成した。

これら「過疎地域における寺院に関する研究」、「祭祀・信仰継承問題研究」で得た知見と新たな課題に立脚し、平成28年度より「次世代継承に関する研究」と題し、現代における社会変化のなか、如何に寺檀関係を維持発展し、法然上人のみ教えを継承していくべきかについて研究を始めた。なお、ここで言う「次世代」とは、中心的に寺院と関わる世代である60~80歳代の次の世代、つまり30~50歳代、およびその子ども世代を念頭に置いている。

特にこの2年間では、子どもの成長儀礼に焦点をあてて研究を進めた。なぜなら、寺院で子どもの成長儀礼を勤めれば、その後の人生儀礼（成人式、結婚式、長寿の祝い、葬式など）にもつながる可能性があり、また子どもの成長儀礼を寺院で行うことは、祖父母・親・子どもの三世代、さらには両家族にわたって寺院に来る機会となり、次世代に信仰を継承する一つの契機になると考えたからである。

本報告は、この2年間での研究成果を報告するものである。第1章では社会変動が寺院の置かれる状況にどのように影響を与え、なぜ今次世代継承を考える必要があるのかについて述べる。第2章では浄土宗における次世代継承の取り組みについてまとめ、第3章では新宗教を含めた他教団の取り組みについて紹介する。第4章では、本研究会で作成し全ヶ寺に配布する「子どもの成長儀礼実践マニュアル」を再録する。なお、七五三をはじめとする子どもの成長儀礼は宗定法要ではなく、「法要集」に記載されていない。差定作成にあたっては、とくに福西賢兆監修『浄土宗慶事法要と祈願』（斎々坊、1995）を参照したことをお断りしておく。

1章　社会変動と寺院
―なぜ今、次世代継承を考える必要があるのか―

①　高度経済成長期における社会変化と寺院

高度経済成長期における社会変化が寺院に与えた影響は大きい。その変化の一つは産業構造の変化であった。農業、漁業、林業従事者である第一次産業従事者率が減少し、給与所得者が多いサービス業を中心とした第三産業従事者が増加した。このことは地域共同体への意識を弱体化させるとともに、家産継承の機会が減ったことによって先祖観の変容をもたらし、葬式のあり方や地域における寺院のあり方にも少なからぬ影響を及ぼした。

またこの時期、人口移動によって過疎過密という状況が生じた。いわゆる過疎地域では、高度経済成長期に若者が都会へ流出することによって「社会減」が生じ、その後一九九〇年代には、社会減に加え、出生数より死亡数が上回る「自然減」が始まった。つまり、若者が出て行ったあとに残された人口が高齢化し、かつ新しい人口が生み出されないという状況に陥ったのである。この状況は、寺院を含む地域社会が不活性化することにほかならない。

過疎地域自立促進特別措置法の第32条、および第33条第1項、2項に該当する地域（以下、過疎指定地域）にある浄土宗寺院は、全国浄土宗寺院の14．0％（988／7051ケ寺）に相当する（H24．2現在）。過疎指定地域にある寺院の割合は、教区によって大きな偏りを見せる。多い教区は、石見（100．0％）、秋田（70．8％）、大分（64．9％）、北海道第1（67．6％）、北海道第2（57．6％）、愛媛（50．0％）、青森（48．2％）、長崎（43．3％）などである。一方少ない教区は、東京（0％）、埼玉（0％）、神奈川（0％）、大阪（0％）、尾張（0％）、伊賀（0％）、滋賀（0．8％）、三河（1．9％）、茨城（2．0％）、富山（2．9％）、岐阜（3．4％）となる。このように地域によって状況に大きな相違が見られること、また先述したように、過疎指定地域にある寺院の割合は、浄土宗寺

院全体の１４％と少数派であるということから、浄土宗における「過疎」の問題は「局地的問題」と捉えられる傾向にあるのではないか。

しかし、現在過疎地域にある寺院に生じている問題は、遠くない将来、全国の浄土宗寺院に広く生じる先見事例として捉えることができると考える。なぜなら、過疎地域で生じている諸問題の根底にある問題点は、地域住民（檀家）減少と檀家範囲の拡散化によって生じる問題に依るところが大きいが、この二つの要因は、今後広く日本中に生じる現象だからである。次にこれら二つの現象について確認したい。

②寺院の今後に関わる社会変化

・人口減少と高齢化

日本は人口減少社会に突入した。２０１６年１０月時点では、人口１億２６９３万人、６５歳以上の高齢化率は２７．３％である。今後、人口減少と高齢化は進み、２０６５年には人口８８０８万人、高齢化率３８．４％と予想されている（２０１７年、出生中位・死亡中位推計結果）。この傾向は、地域により今後の変化の状況が大きく異なるであろうが、人口減少や高齢化の現象を逃れられる地域は限定的であろう。また、高齢化に伴い、今後死亡者数はしばらくの間増加する。出生数及び死亡者数の将来推計を確認すると、２０４０年ごろまで死亡者数は増加する予測となっている（内閣府『平成２９年版　高齢社会白書』）。

葬儀や追善法要による布施収入を大きな収入源としている寺院にとっては、この死亡者数の増加は、寺院経営という観点から見れば、経済的側面に資する要因と見做されるかもしれない。しかし、これは早計であろう。なぜなら、高齢者を現役世代の何人で支えるかという数値を確認すると、２０００年は３．９人、２０１５年は２．３人と推移し、２０３０年には１．８人、２０４５年には１．４人と推移することが予測されている内閣府『平成２７年度版　高齢社会白書』（なお１９７５年時点では８．６人であった）。このことは、１人の死者に対

する葬儀・追善法要を金銭的に支える人数が減少し、施主への負担が大きくなるということである。このことが寺院収入に少なくない影響を与えるであろうことは、想像に難くない。

・少子化、その原因としての未婚率上昇

人口減少の原因の一つとして挙げられるのが少子化である。２０１７年の合計特殊出生率は１．４４であり、人口を維持する目安である２．０８を大きく下回っている。この現象の一つの要因として挙げられるのが、未婚率の上昇である。

未婚率の推移を確認してみよう。５０歳時点で結婚したことのない人の割合を生涯未婚率というが、この推移を現在から１５年ごとに遡って確認すると、２０１５年：男性２３．４％、女性１４．１％、２０００年：男性１２．６％、女性５．８％、１９８５年：男性３．９％、女性４．３％、１９７０年：男性２．１％、女性４．３％、１９５５年：男性１．２％、女性１．５％（「国勢調査」）となっており、この変化を概観すると、おおよそ１９９０年代中頃～２０００年頃から急増しだすことが確認できる。先述したように、生涯未婚率とは５０歳時点で結婚したことのない人の割合なので、おおよそ戦後生まれの人々から未婚率が上昇したということである。戦後に生まれ高度成長期という社会変動、それに伴う価値観の変化のなかで「結婚しない」人々が急増したのである。２０１５年現在ではおよそ男性の４人に１人、女性の７人に１人が結婚していないという状況を鑑みると、檀信徒関係を次世代へと継承するにあたっての大きな困難が予想される。

・世代間住み分けの問題

檀信徒関係を次世代へと継承するにあたっての大きな障害として挙げられるのが、世代間による住み分けの問題であろう。このことについて、高齢者の子ども世代との同居率から確認すると、１９８０年には６９％であったのが、２０１５年には３９％と激減しており、急激に

世代による住み分けの現象が進んだことが分かる（内閣府『平成29年度版　高齢社会白書』）。この世代による住み分けの現象は、高齢者の子どもや孫との付き合い方の意識にも変化を与えたと考えられる。『平成23年度版　高齢社会白書』からは、「いつも一緒に生活できるのが良い」という人が減り、「ときどき会って食事や会話をするのが良い」という「密度の薄い付き合いでも良い」傾向が強まっていることが明らかになっている。このような世代による住み分けと意識の変化は、次世代に月参りや棚経、ほかの「これまでの寺との付き合い」が継承されづらい状況にもつながっている。

社会学者である山下祐介は、過疎問題について「人口の厚い三つの層」との関わりで論じている。人口の厚い代表的な層は団塊の世代（1947～49年生れ）が挙げられるが、その親世代である大正末～昭和初期生れ、また団塊の世代の子ども世代である団塊ジュニアも人口の層が厚いという。この3つの世代の特徴は、大正末～昭和初期生れは、ふるさとで生れ育ち、伝統的なライフスタイルを踏襲している世代、団塊世代はふるさとで生れ育ったが、高度経済成長期に都市に移動し核家族を形成した世代、団塊ジュニア世代は都市で生れ育ち、ふるさとからは切り離されている世代である。

大正末～昭和生れの人々は2018年現在では90歳代前半～90歳代半にあたるので、寺檀関係においては最近15年間ほどで彼らの世代から次の世代への交代が進んだことになる。つまり、最近15年とは、地域やその中にある寺院に対して、伝統的な価値観を持ってきた世代が亡くなり、寺院に対する価値観念に大きな揺らぎが生じた時期であるともいえよう。そしておよそ10年後には団塊世代から団塊ジュニア世代への交代の時期を迎える。だからこそ今、次世代への方策を考える必要があるのである。

（名和清隆）

第2章　浄土宗における次世代継承

本章では、浄土宗における次世代継承の取り組みを整理する。特に包括法人浄土宗、および浄土宗関連団体で

ある児童教化連盟、公益財団法人浄土宗ともいき財団の取り組みについて述べていきたい。

1．包括法人浄土宗としての取り組み

包括法人浄土宗のなかで、次世代継承に係る担当部局は社会国際局である。その取り組みは、子ども対象の「信行道場」「こども会」、および檀信徒会への助成金交付事業である。

①「信行道場」開設助成金交付（7万円交付）

要件

⑴日程は1泊2日以上

⑵帰敬式（ともしびのつどい）をプログラムに組み込む

⑶申請は一開設主催者につき、年1度

⑷申請書、報告書を提出

内容は、経本作り、数珠作り、ともいき夕陽のつどい、帰敬式（ともしびのつどい）、花火・肝試し、掃除、法話、工作などで、夏期に開催されることが多い。主催は各寺院、浄土宗青年会、組、教区などである。助成金の申請件数は、平成25年70件、平成26年70件、平成27年68件、平成28年68件とほぼ同数で推移している。

なお、「ともいき夕陽のつどい」を併修する場合には、別途3万円が助成される。「ともいき夕陽のつどい」とは夕陽を眺めながらお念仏を唱え、西方極楽浄土に思いを馳せるという行事で、宗祖法然上人800年大遠忌を迎えるにあたり、青少年教化事業検討委員会によって提案され、事業として採択されたものである。

②「こども会」開設助成金交付（2万円交付）

要件

⑴日程は1日

⑵寺院を会場とし、内容は「お勤め、お話（法話）、掃除、写経、写仏、堂内で遊ばせる、境内で遊ばせる、帰敬式」のなかから2項目以上実践

⑶申請は一開設主催者につき、年1度

⑷申請書、報告書を提出

内容は、寺院によりそれぞれであり、七夕、花まつり、地蔵盆、キャンプなど他の行事と併修して行う場合も多い。こども会助成金の申請件数は平成25年56件、平成26年52件、平成27年61件、平成28年61件である。なお、ともいき夕陽の集いを併修する場合には、別途2万円が助成される。

③教区「檀信徒会」への助成（設立助成金5万円、活動助成金5万）

檀信徒会設置の際、および各教区で檀信徒会活動が行われる際にそれぞれ助成金が支給されている。800年遠忌の際に、全教区に「檀信徒会」設置を働きかけ、現在、設置36教区、未設置は11教区である。

2．浄土宗関連団体の取り組み

浄土宗の関連団体を列挙すると、

浄土宗児童教化連盟
浄土宗スカウト連合協議会
浄土宗保育協会
浄土宗教誨師会
浄土宗保護司会
浄土宗社会福祉協会
浄土宗芸術家協会
浄土宗民生委員・児童委員協会
浄土宗布教師会
浄土宗寺庭婦人会
浄土宗生水会
浄土宗教学院
浄土宗総合研究所
全国浄土宗青年会
浄土宗平和協会
公益財団法人浄土宗ともいき財団

である。この中で、次世代継承に関する取り組みを行っている団体としては、浄土宗児童教化連盟、浄土宗スカ

ウト連合協議会、全国浄土宗青年会、公益財団法人浄土宗ともいき財団が挙げられるだろう。

全国浄土宗青年会は期ごとに大きく活動内容が異なるので、ここでは、児童教化連盟、浄土宗スカウト連合協議会、公益財団法人浄土宗ともいき財団の取り組みについて略述する。

2―1．浄土宗児童教化連盟

浄土宗児童教化連盟は、昭和44年に、児童への教化推進、会員の相互研鑽を目的として設立された団体である。各教区から理事1名が選出され、その中から理事長、副理事長をはじめとする役職が選出される。活動の柱として、①指導者の育成 ②教化事業の推進 ③教化資料の作成がある。

①指導者の育成

指導者の育成を目的とした、全国研修会と指導者研修会がある。全国研修会は年1回、教化センターによる持ち回りで開催されている。指導者研修会は、年1回京都宗務庁で開催される。これは連盟執行部が企画開催し、児童教化に直接的に役立つ方法を学ぶのが主である。1泊2日の日程で、参加者は100名ほどである。その参加者には寺庭婦人も多く含まれている。

②教化事業の推進

・奉納書道展

昭和57年から年1回開催している。総本山知恩院、大本山増上寺、大本山善導寺で、御忌期間中に開催している。子ども（保育園児、幼稚園児、小学生、中学生、高校生）から作品を募集し、各本山で展示、表彰している。

・花まつりキャンペーン

会員寺院での花まつり開催率向上を目指し、花まつりシール、花の種袋、風船などを作成し、開催寺院への支援を行っている。

③教化資料の作成

・法話集「イキイキコドモ」作成・販売

平易な文体で書かれた、子ども向け法話集を年1回発行している。５０００部発行し、３２００部を会員へ無償配布している。その他は一部１００円で販売している。

・「コドモタイムズ」発行

子ども向けの新聞を年4回発行し、有償配布している。５０００部印刷、会員には３２００部を無料配布している。年間の定期購読料は５００円である。

2―2. 浄土宗スカウト連合協議会

浄土宗スカウト連合協議会は昭和４１年に発足した。ボーイスカウト、ガールスカウトの活動を通じて、法然上人の教えに基づく青少年の育成と信仰の培養を目指している。

浄土宗スカウト連合協議会は、日本連盟が制定している仏教章を獲得するための、浄土宗スカウト仏教章研修会（2泊3日）を実施している。会場によっても異なるが、毎回２０―４０人の浄土宗スカウトを送り出している。

2―3. 公益財団法人　浄土宗ともいき財団

浄土宗ともいき財団は、大正3年に浄土宗の公益部門として「財団法人浄土宗報恩明照会」として設立されたことに始まる。平成２５年4月に公益財団法人となり、現在の名称に変更された。現在の主な活動は次のようである。

①助成事業（平成２９年度より）

浄土宗寺院、浄土宗教師もしくは浄土宗の関係団体が行っている公益的な活動に対して助成を行っている。助成対象として挙げられる事業内容は、高齢化社会への対応、地域活性化、社会的弱者への支援、心の問題への取り組み、災害支援・被災地支援、教育・体験活動、文化の継承、環境問題改善への取り組み、犯罪防止・更生、他文化共生、その他である。

助成に関する広報は、浄土宗全ヶ寺に郵送配布という

方法を採った。助成金は全体で1200万円、1件最大で100万円である。平成29年度は60団体が応募し、38団体が採択された。

ほか活動として、

②心といのちの電話相談室（現在は週2回　月・金10時～16時）

③被災地支援（カウンセラーの派遣）

④ともいきフォーラム（年1回　2017年は3月4日に芝学園講堂で開催した）

⑤ともいき懇話会

を行っている。

ほかにも各総代本山において、次世代継承に関する取り組みを展開している。総本山知恩院では、おてつぎ信行奉仕団、おてつぎこども奉仕団、成人式など、また、大本山増上寺では臨海学校、大本山鎌倉光明寺では夏季僧堂、大本山善光寺大本願ではなむなむキャンプを開催している。

このように、次世代継承に関する事業は、関連団体、本山、各寺院がそれぞれに行っている状況であり、包括法人浄土宗は、各寺院・団体への助成事業を展開している。

子ども対象の活動は、包括法人浄土宗、関連団体、各本山いずれも積極的に展開しているようである。一方、青年、壮年層を意識した活動としては、総本山知恩院が展開するおてつぎ奉仕団を指摘することができる。

（名和清隆）

3章　他教団における次世代継承
～HPから見える取り組みの紹介～

本章では他教団のホームページ（以下、HP）から捉

えることのできた、次世代の人々への取り組みを紹介したい。

ただしホームページという限定的な資料からの把握であるので、他教団の取り組みのすべてを網羅しているわけではない。また、各教団によってホームページの作成意図が異なるため、各教団の活動内容を客観的に分析することは困難であり、顕著な活動を紹介するにとどめたい。更には、本章で紹介する教団のほかにも複数の教団に関する調査を行ったが、顕著な活動を展開している教団のみを紹介することをお断りしておく。

なお、本章で紹介する次世代継承の取り組みとは、檀家や信徒の青壮年層およびその子ども世代のみならず、一般の人々向けの取り組みや広報など広い内容を包括している。

①浄土真宗本願寺派

⑴動画での学び

ホームページ上に「動画で学ぶ」というバナーがあり、ここから「本願寺公式動画配信サイト」を閲覧できる。念珠の付け方、合掌・礼拝作法、焼香作法、仏典童話といった門徒が学べる動画資料、「お坊さんがゆく!」という寺院を紹介する動画、本願寺の最新情報を知ってもらう「ニュース」動画などが掲載してある。また僧侶向けとして、袈裟の着け方の動画などもある。

(http://www.hongwanjior.jp/project/study.html 2018.3.23)

⑵一般向けリンク集

ホームページにリンク集「他力本願net」を展開している。「私たちの生活の悩みや関心と仏教の智慧の接点となり、豊かな生き方のヒントが見つかる場所を目指し

て」いるもので、関連大学、関連団体などが自由にリンクを張り、行っている活動を紹介できる場所となっている。リンクが張られているサイトは、暮らしの仏教語豆事典、僧シャル見聞録、仏女生活、グチコレ、イタリアン精進レシピなど、門徒に限らず広く一般の人々をターゲットとした内容が多い。

(http://www.hongwanjior.jp/ 2018.3.23)

(http://tarikihongwan.net/ 2018.3.23)

②真宗大谷派

⑴帰敬式の推進

真宗本廟（東本願寺）で毎日午前午後の2回帰敬式が行われている。受式すると法名が授与される。礼金（HP本文ママ）は21歳以上が1万円、20歳以下は5千円。担当は「真宗大谷派宗務所本廟部帰敬式実践運動推進事務室」である。

(http://www.higashihonganji.or.jp/kikyoshiki/honganji/ 2018.3.23)

⑵「御本尊」「お脇掛」の頒布

「お内仏」のある生活を推進するため、「御本尊」「お脇掛」を参拝接待所・各教務所で頒布している。ホームページ上で礼金表一覧を明示している。

⑶青少幼年センター

真宗大谷派の機関として２０１０年に開設された。その目的は、「青少幼年に学び、その課題を受けて宗門内外に提言していく」「青少幼年を取り巻く時代社会の課題に関わっていく」「青少幼年の課題を明らかにする真宗の学びを志向すること」である。なおここでの「青年」とは35歳程度までの人々としている。

具体的活動は以下の様である。

○お寺を子どもたちの集いの場にするためのバックアップ

子ども会開設のための手引書発行

絵本１００冊プレゼント

教化教材の発行

○青少年が抱える問題についての相談・支援

カルト問題相談窓口の開設

カルト問題学習

『青少幼年教化指針』の発行

○青少幼年が活動・表現する場の提供

子ども参拝案内所（子どもテント）

子ども報恩講のつどい

⑷池の平青少幼年センター

親鸞聖人の流罪の地でもある、長野県妙高高原に自然を学べる宿泊施設を所有している。団体だけでなく、個人でも使用可能で、宗祖親鸞聖人誕生８００年・立教開宗７５０年の慶讃事業として、１９７３年（昭和４８年）に設立された。

⑸真宗教化センター　しんらん交流館

東本願寺に隣接した、門徒・一般参拝者・地域住民が

使用できる施設で、２０１５年に開設された。開館は、平日（９時～１８時、火曜日休館）、土日祝日（９時～１７時）。レストラン、ギャラリー、大谷ホール、東本願寺文庫、茶室、会議室などを併設しており、公開講演会、定期法要、茶道教室、こどもへの読み聞かせなどを開催している。

（http://jodo-shinshuinfo/gyoji_entry/ 2018.3.25）

⑹写真日記

「仏前結婚記念参拝式」報告、桜の開花報告など、東本願寺の様子が伝わる写真が随時投稿されている。

⑺東本願寺キャラクター　鸞恩くん、蓮ちゃん、あかほんくん

子ども達が親鸞聖人の教えにふれる機縁となるよう、親鸞聖人７５０年遠忌の際に誕生した。着ぐるみのぬいぐるみもあり、イベントに参加している。

（http://www.higashihonganji.or.jp/character/ 2018.3.25）

③臨済宗、黄檗宗（臨黄ネット）

⑴寺院検索項目の充実

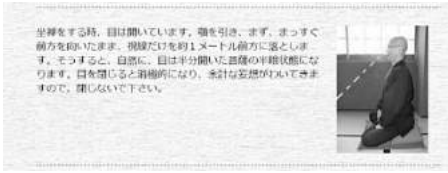
お寺が実施している様々な活動が検索できる。検索で

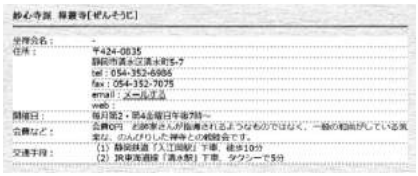
きる項目は、坐禅会、写経会・法話会、技芸教室（茶道・華道等）、催し物（コンサート等）、水子供養、墓地・納骨堂分譲、精進料理、名所・札所、拝観寺院、祭事・供養（大根炊き・筆供養等）などである。

（http://www.rinnou.net/jiin_search_i/search_condition.php 2018.3.28）

(2)坐禅の仕方、坐禅会実施寺院の紹介

初心者向けに坐禅の座り方を、写真を使って丁寧に解説している。坐禅会ができる寺院を都道府県別に検索できるようになっており、各寺院の開催日・時間、会費、交通手段、さらには坐禅会の雰囲気なども書かれている。





（http://www.rinnou.net/cont_02/index.html 2018.3.28）

(3)拝観寺院で配布される栞の一覧

臨済宗や黄檗宗の拝観寺院で配られる「いろは歌」の栞の画像が一覧できるようになっている。それぞれの栞には、関連する禅語が説明されており、ＱＲコードも付されている。拝観者がコレクションすることを想定されている。

(http://www.rinnou.net/iroha_uta/iroha_allhtml 2018.3.28)

(4)中国語バージョン

黄檗宗は立宗のルーツを中国の臨済宗に持つこともあり、HPは英語だけでなく、中国語バージョンも用意されている。

(http://cn.rinnou.net/ 2018.3.28)

④曹洞宗

(1)公式HPに多様なコンテンツ

HP名を「曹洞禅ネット」としている。動画コンテンツが充実し、スマートフォン（以下、スマホ）専用ページ（内容はHPと同じ）もある。外国語は英語・ポルト

ガル語・スペイン語・フランス語・イタリア語・ドイツ語の六か国語に対応している。

○一般向けコンテンツ

トップページのわかりやすいところに坐禅解説があり、坐禅ができるお寺を検索可能となっている。また坐禅マニュアルなどの動画もあり、作法をやさしく解説している。

曹洞禅フォトコンテストという写真コンテストがある。キヤノンマーケティングジャパンと協賛し、お寺や仏教を身近に感じてもらえるように工夫している。

東京都港区芝にある東京グランドホテルにて毎月1回禅教室を行っている。また「朝活禅」（2016～2017）と称し出勤前の方々の取り込みが注目された（現在、朝活禅は行われていない）。

○檀信徒向けコンテンツ

多くの詠讃歌の楽譜をダウンロードすることができ、試聴することも可能。スマホアプリにより練習することもできる。

【公式HP】（http://www.sotozen-net.or.jp/2018.3.28）

⑵SNSの活用

○フェイスブック https://www.facebook.com/sotozen.official

基本的にニュースリリースがメインで更新頻度は2～

3日に1回。「いいね」はおよそ100前後である。

○インスタグラム https://www.instagram.com/sotozen_mind/

主に修行風景等の写真を掲載している。更新は不定期。

(3)豊富なスマホアプリ

曹洞宗や地方教化センターが管理する曹洞宗公式アプリが4種類ある。

○「曹洞宗公式アプリ～心の鏡～」

坐禅・写経などを手軽に体験できるアプリ。

坐禅アプリでは膝の上にスマホを置いて、動いたら警策で知らせる機能があり、心の落ち着き度をグラフ化してくれる。

写経アプリは指でなぞって写経ができ、納経することもできる。

この他、鐘や木魚を叩く機能や、御朱印がもらえる場所に行くと御朱印がもらえる巡拝アプリなどもある。

○「心のノート：あなたの“気持ち”を記録して心を整える日記アプリ」

うれしい気持ち、悲しい気持ちなど、心に溜めず日記に綴ることで、心を整理し、心の環境を整えるアプリ。

アプリ内で曹洞宗を連想させる文言はほとんどなく、一般向けに作られたもので、10万ダウンロードを超える大ヒットとなっている。

○梅花流詠讃歌練習アプリ

詠讃歌全曲を収録。メトロノームやキーの上げ下げ機能がある。

○曹洞宗経典

曹洞宗のお経アプリ。

⑤日蓮宗

⑴日蓮宗総合リンク集　日蓮宗全寺院マップ

日蓮宗全寺院の所在地を掲載。Google mapと連動しており、所在地を地図で確認できる。

(https://www.nichiren.or.jp/qa/ 2018.3.25)

⑵行きつけのお寺を作ろう研究班

多くの方に「学び」「気づき」「癒し」の場としてお寺を活用してもらおうと、日蓮宗宗務院伝道部が２０１３年から開始した活動である。映画上映会、入門仏教講座、ヨガ教室、学びイベントなどを定期開催し、檀家以外でも参加できる寺院を検索することができる。

(https://www.nichiren.or.jp/qa/ 2018.3.25)

「「しっかりくん」と「ゆっくりくん」の寺参りのすすめ」という動画（約6分半）を公開しており、仏像、内陣、朝の勤行などをキャラクターが紹介している。

(3)笑顔と出会う寺めぐり

日蓮上人ゆかりの寺を「旅する」形で紹介している。

(https://www.nichiren.or.jp/qa/ 2018.3.25)

(4)みのぶガール

身延山の観光ガイド。プチ修行、パワースポット、宿坊の紹介、および観光ガイドからなる。宗教学者や文化人のコラムもある。

(https://www.nichiren.or.jp/qa/ 2018.3.25)

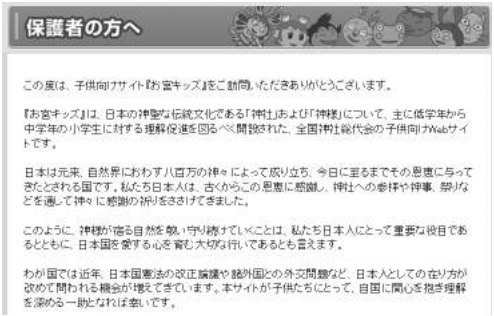
⑥神社本庁

神社本庁のホームページには、神道への誘い、神道のいろは、コラムというタグがあり、神道を広く一般の人々に理解してもらうため、日本神話、伊勢神宮、お参りの仕方、お祭りなどの解説が掲載されている。また同趣旨に基づくダウンロード資料を用意している。

また、「お宮キッズ」という子ども対象の外部サイトがある。キッズサイトでは「鎮守の森オールスターズ」というキャラクターが紹介していく形で、「神さま」「神社」に関することだけではなく、日本文化や日々の行事といった身近な話題を多く紹介している。

(http://www.omiyakids.com/index.html　2018.3.28)

このアニメのコンテンツの中には「おうちの方へ」というボタンがあり、アニメの理念についての説明がある。「神様が宿る自然を敬い守り続けていくことは、私たち日本人にとって重要な役目であるとともに、日本国を愛する心を育む大切な行いである」と、子どもへの教育の目的を示している。



保護者の方へ

この度は、子供向けサイト『お宮キッズ』をご訪問いただきありがとうございます。

『お宮キッズ』は、日本の神聖な伝統文化である「神社」および「神様」について、主に低学年から中学年の小学生に対する理解促進を図るべく開設された、全国神社総代会の子供向けWebサイトです。

日本は元来、自然界におわす八百万の神々によって成り立ち、今日に至るまでその恩恵に与ってきたとされる国です。私たち日本人は、古くからこの恩恵に感謝し、神社への参拝や神事、祭りなどを通して神々に感謝の祈りをささげてきました。

このように、神様が宿る自然を敬い守り続けていくことは、私たち日本人にとって重要な役目であるとともに、日本国を愛する心を育む大切な行いであるとも言えます。

わが国では近年、日本国憲法の改正論議や諸外国との外交問題など、日本人としての在り方が改めて問われる機会が増えてきています。本サイトが子供たちにとって、自国に関心を抱き理解を深める一助となれば幸いです。

(http://www.omiyakids.com/util/parent.html　2018.3.28)

⑦天理教（設立：1838年、本部：奈良県天理市）

天理教本部において、「こどもおぢばがえり」が毎年開催されている。これは7月末からの2週間で行われるサマーキャンプで、信者の子弟だけでなく一般のこども参加できる。テレビCMも放映している。人間創造の場所「ぢば」に帰る（聖地巡礼）という宗教的意味を持ち、朝のお勤め、講話、奉仕活動である「ひのきしん」を行う。ほかプールやアスレチック、ミュージカルやステージショー、夜の花火やパレードも行われる。

（http://kodomoojibagaeri.com/ 2018.3.28）

⑧創価学会（設立：1930年、本部：東京都新宿区信濃町）

公式ホームページのトップは、創価学会の概要、活動等を知ってもらうためのインデックスと会員向けのインデックスに大きく分かれている。

⑴教育への取り組み

創価学会の概要、活動等を知ってもらうためのインデックス内に平和・文化・教育のタグがあり、教育のタグでは教育本部での教育的取り組みが紹介されている。

「輝く子どもと人間教育プラザ」では、教育実践記録や教育相談などを通して各地の教育部員が地道につかんだ現場の知恵を、家庭・地域の教育力の向上に生かすことを目指して全国各地で巡回展示している。「未来部育成相談室」では、学会員の親子が抱える悩みに耳を傾け、安心と希望をもたらすアドバイスを行っている。「子育て問答集」では、幼稚園・保育園で多くの子どもたちと関わってきた教師が、子育てで直面する保護者の疑問や

悩みに答える問答集がダウンロードできる。

(https://www.sokanet.jp/hbk/kyoiku.html　2018.03.26)

(2)子ども向けの教化グッズ

会員サポートツールでは、創価学会の教え等を紙芝居で理解できるようワードファイルやＰＤＦで各種資料をダウンロードできるようになっている。

タイトル	台本	台本	絵
1.26 SGIの日	Word(100KB)	PDF(217KB)	PDF(354KB)
二月闘争	Word(96KB)	PDF(149KB)	PDF(320KB)
2.16 日蓮大聖人ご聖誕の日	Word(28KB)	PDF(124KB)	PDF(428KB)
3.5 仕年部結成記念日	Word(78KB)	PDF(24KB)	PDF(384KB)
3.16 広宣流布記念の日	Word(82KB)	PDF(106KB)	PDF(271KB)
4.2 戸田城聖第二代会長のご逝去	Word(132KB)	PDF(244KB)	PDF(157KB)
4.20 聖教新聞創刊記念日	Word(91KB)	PDF(217KB)	PDF(768KB)
5.3 創価学会の日	Word(100KB)	PDF(157KB)	PDF(901KB)
5.5 創価学会保護者の日	Word(78KB)	PDF(224KB)	PDF(896KB)
6.8 池口常三郎初代会長誕生日	Word(100KB)	PDF(203KB)	PDF(2550KB)
6.30 学生部結成記念日	Word(71KB)	PDF(178KB)	PDF(940KB)
7.3 「7.17」-権力との闘争	Word(113KB)	PDF(191KB)	PDF(320KB)
7.11 「男子部」7.16「女子部」結成記念日	Word(80KB)	PDF(232KB)	PDF(2248KB)
8.24 池田先生の入信記念日	Word(93KB)	PDF(175KB)	PDF(777KB)
9.8 原水爆禁止宣言の日	Word(92KB)	PDF(108KB)	PDF(444KB)
10.2 世界平和の日	Word(98KB)	PDF(178KB)	PDF(453KB)
11.18 創価学会創立記念日	Word(104KB)	PDF(108KB)	PDF(317KB)
11.18 師弟勝利の誓史－未来は弟子で決まる	Word(125KB)	PDF(244KB)	PDF(1471KB)
12.2 小説『人間革命』執筆開始	Word(96KB)	PDF(152KB)	PDF(1180KB)

(https://www.sokanet.jp/kaiin/kamishibai.html　2018.03.26)

(3)年代別組織

創価学会では世代別に会員を結びつける体制を採っている。次世代を担う年代別組織として、男子部（１５～３９歳）、女子部（３９歳までの独身女性）、学生部（大学生・大学院生・専門学校生）、未来部（未就学児、小学生、中学生・高校生）があり、青少年教化に力を入れ

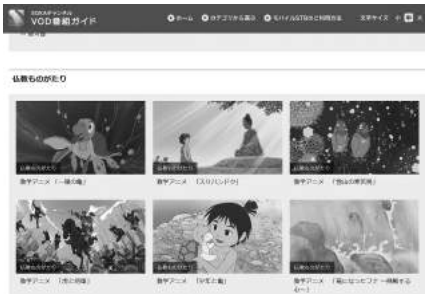
ている。

特に未来部では子どもたちの絵画展や書道展、中学・高校の部活動、未来部員が英会話で寸劇を披露するコンテストである「未来部E―1グランプリ」など、様々な教化活動がある。

（http://www.miraibu.net/index.html　2018.03.26）

⑷ＳＯＫＡチャンネルＤＶＤガイド

幼児向けの教化アニメＤＶＤが視聴できるようになっている。



（https://vod.sokanet.jp/program/study.html　2018.03.26）

⑨ＧＬＡ（設立：１９６９年、本部：東京都台東区雷門）

⑴生活・人生のサポートを前面に

ＧＬＡは人生のサポートを強く打ち出している。具体的には冠婚葬祭を人生の節目として重視し、誕生の時の命名の儀に始まり、結婚式、葬儀、供養までをカバーしている。

また信者の研鑽の場でもある人生祈念館（八ヶ岳）には、

信者の遺骨が奉納され、さらに人生の記録として、生前の姿（写真など）、プロフィール、遺族や友人、後世の人々へのメッセージの映像が「人生記録出会室」に保管され、いつでも閲覧できるようになっている。

さらに多様なサポートとして、健康、福祉、法律、親と子の教育サポート、災害時の支援を謳っており、信者向けの健康講座、法律相談、親研修（親子に関する学び）などが開催されている。

（https://www.gla.or.jp/support/ 2018.3.28）

（2）青年塾、受験、転職のサポート

青年塾を組織し、「受験生研究班」（「魂の学」の学習と実践を通して受験に挑戦する研修の場）の集会への参加を促し、「ウイズダム」（問題を解決し、願いを実現するためのメソッド）に取り組み、実践している同じ受験生の仲間の報告を聞く、といった活動が行われている。

また、転職の際に、ＧＬＡの教祖のセミナーがいかに役に立ったかなどの体験談を掲載している。

（https://www.gla.or.jp/support/ 2018.3.28）

（3）世代層別や少人数の集まり

世代層別のセミナーを開催しており、それぞれの体験

談が掲載されている。生活実践では、1カ月に2回、2時間程度、住まいや職場が近い5、6名程度のグループをつくって、経営・医療・教育・アート・音楽・演劇・法務などの専門分野で働く方々のための研鑽の場として、「一人の人間として生きる」ことを互いに学び合うという。また、八ヶ岳にて1泊2日で、「止観体得」の研修を行う。

（https://www.glaor.jp/studysessions/ 2018,3,28）

（4）実践とライフスタイル

HPに老若男女あらゆる世代の実践とライフスタイルを掲載し、信者の顔がしっかりと見えるようにしてある。具体的には町会議員、弁護士、老人ホーム施設長、会社員、医師、主婦、作家など様々な肩書きの信者が登場し、自分の人生や仕事の中でいかにGLAの教えが役立っているかという点について語られている。また、「自己診断チャート」や「発見ガイド」など教えを分かりやすい形で提供する工夫もなされている。

（https://www.glaor.jp/practice/report/ 2018,3,28）

小　結

本章においては、新宗教を含む他教団における次世代

継承の取り組みを紹介した。事例を収集するにあたっては、「重要な広報媒体であるＨＰに次世代継承についての取り組みを積極的に報告する教団は、次世代継承に対して熱心な教団であろう」との作業仮説をもとに収集を開始した。しかし調査するにつれて、我々が想定した以上に、各教団のＨＰ制作意図が異なることが明らかになった。例えば、信徒向けのサイトにはパスワードをかけて外部からの閲覧ができないようにしており、ＨＰからは次世代継承に関する取り組みが把握できない新宗教教団もあった。よって、今回実施したＨＰを通じての次世代継承の取り組みの把握は、限定的な成果と言わざるを得ない。より詳細な活動把握については、今後の課題としたい。

今回の調査において明らかになった、他教団における次世代継承の取り組みの概要は以下の様である。

・教義、儀礼、歴史などに関しての解説

教団によって比重は異なるものの、いずれの教団も掲載している内容である。これらの内容を、子ども向けに平易に紹介しているサイトを設けている教団（神社本庁）もある。

・本山、聖地、有名寺院・神社の紹介

多くの教団が紹介している。旅行記スタイルで本山を紹介する教団（日蓮宗）、Googleストリートビューで疑似的に参拝できる教団（霊派之光）、携帯で霊地の方角を確認できるアプリを用意している教団（真如苑）もある。

・寺院検索、開催行事の検索

伝統仏教教団（曹洞宗、日蓮宗、臨済・黄檗宗、浄土宗など）に多く見られる。これは、菩提寺のある地域から転居した檀信徒、また一般の人々に対して、宗派との結びつきを継続させようとの意図が感じられる。

・子ども向けプログラム

子どもへの教義や儀礼の解説、キャンプ形式での体験

など多くの教団が積極的に取り組んでいることが確認できた。

・青年層、壮年層など年齢階層別の組織や活動

創価学会やＧＬＡなどの新宗教教団が積極的に活動を展開している。伝統仏教教団では真宗大谷派が「青少幼年センター」を設置し、３５歳までの門徒に対する活動を意識的に取り組んでいるものの、浄土宗を含め他の伝統仏教教団においては手薄であることは否めないだろう。

・その他

浄土真宗本願寺派では、悩み相談の活動「グチコレ」をはじめとした、関連団体が取り組む活動をうまく宗派の広報として位置づけている。曹洞宗は、スマホアプリ「心のノート」を提供し、仏教色を薄めることにより広く一般の人々に仏教に触れる機会を提供している。また新宗教団体であるＧＬＡでは、誕生から葬式・法事に至るまでの人生すべての儀礼に係ることによって、人生の中に教えが活きることを強調している。

（研究班）

4章　寺院での子どもの成長儀礼

現在、「寺離れ」が起きているという声が各地から聞こえる。この原因のひとつには、檀信徒の高齢世代・青壮年世代・子ども世代それぞれが異なる場所に住む状況が増えたことにより、寺院や信仰に関する檀家家庭内での継承が難しくなっていることが挙げられるだろう。

一方、テレビや雑誌の影響で、いわゆる「仏教ブーム」が起こり、一般の方々からの寺院に対する興味関心も高まっている状況も見られる。

このような状況であるからこそ、本研究班では、寺院での「子どもの成長儀礼」を行うことを提案する。なぜなら少子化という状況のなか、子どもが主役の成長儀礼を求める傾向がより強くなっているからである。寺院で子どもの成長儀礼を勤めれば、その後の人生儀礼（成人式、結婚式、長寿の祝い、葬式など）にもつながる可能

性がある。また、子どもの成長儀礼をお寺で行うことは、祖父母・親・子どもの三世代、さらには両家族にわたって寺院に来る機会となり、次世代に信仰を継承する一つの契機になる。

本研究班では、成長儀礼としては七五三、および新たに提案する、法然上人の生涯に因んだ学業成就の法要「智慧結び法要」を取り挙げ、これらの具体的実践方法を紹介する「子どもの成長儀礼　実践マニュアル」を作成した。このマニュアルは、子どもの成長儀礼を実践するのに役に立つ様々な素材をまとめたものである。またダウンロードして使用できる資料、および法要のイメージ動画、解説動画、水瓶や洒水器の紙飾り作成解説動画も用意した。なおマニュアルは、広い普及を目指し住職一人でも勤めることができる形式を念頭に置いて作成した。

本マニュアル作成にあたっては、法式の専門家、および当研究所の「法式研究班」に協力を仰いだうえで作成したが、我々研究班としては「より広い範囲での普及」を最優先事項としたため、諸課題が残ることをお許しいただきたい。

本章では、マニュアルに掲載した「寺院での子どもの成長儀礼の位置づけ」「浄土宗の祈願について考える」を加筆修正したものを収録するとともに、「子どもの成長儀礼　実践マニュアル」の縮刷版を掲載する。

（名和清隆）

4―1　寺院での子どもの成長儀礼の位置づけ

本研究班では、本マニュアルで提唱する成長儀礼を浄土宗への入信を促し、帰敬式へとつなげていく機会の一つと捉え、成長儀礼の真の目的は仏・法・僧の三宝帰依へとつなげていくことにあると考えている。浄土宗では近年、年少者向けに三宝帰依の精神を「明るく」「正しく」「仲よく」という三つのスローガンに置き換えて表現してきた。ただし幼児を含む年少者にこの三つのスローガンを伝えていくためには、より具体的な表現が必要である。

周知のごとく「仏」とは覚った者、私たちを覚りの境地へと導いて下さる方、「法」とは覚った人の教え、覚りの境地へと導いて下さる方の言葉、あるいは真理、「僧」とは覚りの境地を求めて集う人々と和合の団体を指す。本研究班では「明るく」を「仏に感謝できる心」、「正しく」を教えに照らして「我が身を振り返る心」、「仲よく」を「仲間を思いやり敬う心」とし、

「七五三」においては、

「明るく」＝「ありがとう」と笑顔で言える人になりましょう

「正しく」＝「ごめんない」と正直に言える人になりましょう

「仲よく」＝誰にでも優しくできる人になりましょうと具体的な表現を提示した。

「智慧結び法要」においては、

感謝の気持ちを忘れずに毎日を笑顔で「明るく」過ごし、我が身を振り返りながら大人となる道を「正しく」歩み、思いやりと敬いの心をもって「仲よく」生きることを誓いという表現を提示した。仏法僧を宝と受け止める心を具体的にどう表現するか、三宝への帰依を促す際の重要な課題である。

（袖山榮輝）

4―2　浄土宗の祈願について考える

子どもの無事成長や学業成就を「祈願」することは「現世利益」（現益）を求めることであり、念仏往生という当益を求める浄土宗の教えにそぐわないと思われるかもしれない。承知のとおり浄土宗を含め仏教は煩悩なき仏の世界を指向する。自らの欲望、煩悩を満足させようと「祈願」したところで、所詮、煩悩の世界における満足を求めているに過ぎず、そこに救いはない、というのが浄土宗の立場と言えるだろう。しかしながら、身も心も安らかな人生を送れるよう神仏に願い祈りを捧げることが信仰心を育む「きっかけ」「縁」となることも否定できない。

当研究班が無事成長や学業成就を「祈願」する法要を

提唱する目的は、幼児や青少年が浄土宗寺院を訪れる「きっかけ」を創り出し、帰依三宝の精神に触れ、念仏を称え、阿弥陀仏と「縁」を結んでいただくことにある。祈願は「きっかけ」であり、その先にあるものが目的なのである。

藤堂恭俊台下の論文（「念仏の利益―現世において受ける変・転の妙味―」『教化研究』4号、1992）に、「摂取の光明の真只中に摂尽されていても、それに背を向けて、光明の波長を捉えようとしない人にあっては、摂取不捨の光明も不摂取の光明という外ない」という一節がある。無事に成長しても学業が成就しても、阿弥陀仏の光明に背を向けていては何の意味もない。念仏往生を求める者は摂取の光明に背を向けてはならない。念仏往生を求める視点から、無事成長や学業成就の真の目的を問うならば、それは摂取の光明に対して決して「背を向けない」人になることだろう。

無事成長や学業成就といった現世利益を求める「祈願」法要については、そうした真の目的を踏まえて勤める必要があると考える。

（袖山榮輝）

4―3　「子どもの成長儀礼実践マニュアル」

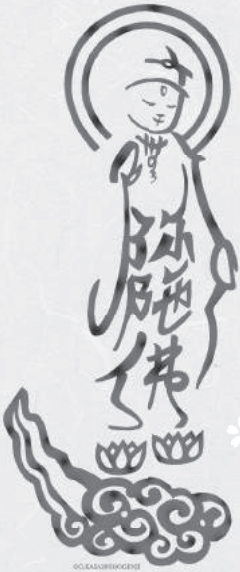
本節では、本研究班が作成し『宗報』2018年5月号に同封して全ヶ寺配布した「子どもの成長儀礼実践マニュアル」を再録する。このマニュアルは、浄土宗寺院において子どもの成長儀礼をより広く実施して頂くために作成したものである。よって、できるだけ「簡単に」「住職一人でも実施できる」形式を念頭に作成した。また、人々に広く知ってもらい普及を図るための動画、実践するうえで活用できる資料を作成し、当研究所のホームページよりダウンロードして使用できるようにした。

智慧結び法要に関する動画作成においては、総本山知恩院に「法然上人行状絵図」の画像使用許可を頂いた。また七五三に関する動画、ポスター作製においては大本山増上寺に撮影協力をいただいた。

やってみよう！

ダウンロードしてすぐに使える！

子どもの成長儀礼 実践マニュアル



浄土宗総合研究所編

目次

・今こそお寺で「子どもの成長儀礼」を！ 2
・明るく・正しく・仲よく！

七五三 3
・七五三の由来
・七五三の現状
・浄土宗における七五三の意味
・次第
・事前準備
・初参り

智慧結び法要 8
・智慧結び法要のすすめ
・法然上人のご生涯と智慧結び法要
・事前準備
・次第
・智慧結び法要短縮版

その他の工夫 13
・写真撮影
・記念品

おわりに ～浄土宗の祈願について考える～ 15

ダウンロード可能資料一覧

今こそお寺で「子どもの成長儀礼」を！

「寺離れ」が起きているという声が各地から聞こえてきます。この原因の一つには、檀信徒の高齢世代・青壮年世代・子ども世代それぞれが異なる場所に住む状況が増えたことにより、寺院や信仰に関する檀家家庭内での継承が難しくなっていることが挙げられるでしょう。一方、テレビや雑誌の影響で、いわゆる「仏教ブーム」が起こり、一般の方々からの寺院に対する興味関心も高まっている状況も見られます。

このような状況である今こそ、お寺で七五三などの「子どもの成長儀礼」を行ってみませんか？　なぜなら昨今、少子化という状況のなか、子どもが主役の成長儀礼を求める傾向がより強くなっているからです。

お寺で子どもの成長儀礼を勤めれば、その後の人生儀礼「成人式、結婚式、長寿のお祝い、葬式など」にもつながる可能性があります。また、子どもの成長儀礼をお寺で行うことは、祖父母・親・子どもの三世代、さらには両家族にわたって寺院に来る機会となり、次世代に信仰を継承する一つの契機になることでしょう。

今回、成長儀礼として「七五三」、および浄土宗総合研究所が新たに提案する、法然上人のご生涯に因んだ学業成就の法要「智慧結び法要」を取り挙げ、これらの具体的実践方法を紹介します。

この「子どもの成長儀礼 実践マニュアル」は、子どもの成長儀礼を実践するのに役に立つ様々な素材をまとめたものです。浄土宗総合研究所のホームページからダウンロードして使用できる資料、および法要のイメージ動画、解説動画、水瓶や洒水器の紙飾り作成解説動画も用意してあります（ダウンロード可能資料には、⬇が付いています。

なお本マニュアルは、ご住職一人でもできる次第構成を念頭に置いて作成しています。是非、本マニュアルを活用し、実践してみてください。

明るく・正しく・仲よく！

本マニュアルでは成長儀礼を通して浄土宗への入信を促し、帰敬式へとつなげていく機会の一つと捉え、成長儀礼の真の目的は仏・法・僧の三宝帰依へとつなげていくことにあると考えています。浄土宗では、年少者向けに三宝帰依の精神を「明るく」「正しく」「仲よく」という三つのスローガンに置き換えて表現してきました。ただし幼児を含む年少者にこの三つのスローガンを伝えていくためには、より具体的な表現が必要でしょう。

ご承知のように「仏」とは覚った者、私たちを覚りの境地へと導いて下さる方、「法」とは覚った人の教え、覚りの境地へと導いて下さる方の言葉、あるいは真理、「僧」とは覚りの境地を求めて集う人々と和合の団体を指します。本マニュアルでは「明るく」を「仏に感謝できる心」、「正しく」を教えに照らして「我が身を振り返る心」、「仲よく」を「仲間を思いやり敬う心」とし、「七五三」においては、

「明るく」＝「ありがとう」と笑顔で言える人になりましょう
「正しく」＝「ごめんない」と正直に言える人になりましょう
「仲よく」＝誰にでも優しくできる人になりましょう

と具体的に表現しました。「智慧結び法要」においては、

感謝の気持ちを忘れずに毎日を笑顔で「明るく」過ごし、
我が身を振り返りながら大人となる道を「正しく」歩み、
思いやりと敬いの心をもって「仲よく」生きることを誓う

という表現にしました。仏・法・僧を宝と受け止める心を具体的にどう表現するか、三宝への帰依を促す際の重要な課題と言えます。

七五三

七五三の由来

七五三とは、一般的には十一月十五日に、三歳・五歳・七歳の子どもに行う成長を祝う儀礼です。その由来は、三歳は髪置、五歳は袴着、七歳は帯解とされ、髪型や服装を変えることによって、子どもの成長を祝うものです。

現在、一般的には、女児は三、七歳、男児は五歳に行うものとされていますが、このように全国的に定型化されたのは明治期以降といわれています。それ以前は三歳に男児、五歳に女児を祝う、あるいは七歳には男女ともに祝うという地域もあり、地域や社会階層によって様々でした。また、日にちも十一月十五日とは限りませんでした。

七五三の現状

現在でも大変な賑わいを見せる七五三ですが、近年では次のような変化が見られます。お寺で実施するうえでも、留意すべき大切なポイントでしょう。

◆日程の拡散化

十一月十五日当日に行うよりも、近辺の土日に行う傾向が強くなっています。これは父親も含めた家族や両家の両親が参加する傾向に伴うものです。さらに着物レンタルの関係で、十月下旬の週末から七五三を実施する状況が見られます。

◆着物の着用率上昇

九〇年代中頃より、レンタル着物付写真館が全国展開を開始しました。この影響により、七五三での着物着用率が上昇したと言われています。

◆写真撮影が必須に

先述したレンタル着物付写真館の展開に伴い、写真撮影が必須なものとなりました。参拝とは別日程で前撮りを行う場合もあり、複数回着替えて撮影することも増えているようです。

◆氏神社ではなく、近隣の有名神社に参拝する傾向

本来は氏神に対して祈りを捧げる機会でしたが、氏神や氏子という観念が希薄化するに伴い、有名神社に集中する傾向が強まりました。これは記念写真を撮ることに重きを置く傾向とも関係しているようです。

◆大切な「家族の記念日」に

七五三はこれまでの伝統を引き継ぎながらも、写真撮影や食事会といった新たな要素が加わり、「家族の記念日」というイベントとしての様相が強くなっています。

浄土宗における七五三の意味

浄土宗寺院で七五三を行う意味は何でしょうか。それは、阿弥陀如来への結縁を通して帰依に導く大切な機会であるとともに、阿弥陀如来およびご先祖様に対して、今後の無事成長を願うことです。ですから、御本尊前にはご先祖様のお位牌をお祀りするとともに、法要の後にはお墓参りをして、ご先祖様へ報告するのがよいでしょう。

【実践にあたっての留意点】

◎現在七五三は、大切な「家族の記念日」という意味合いが強くなっています。こうしたニーズに応えるための工夫も必要です。

◎日程に関しては、必ずしも十一月十五日にこだわる必要もないでしょう。

◎近年、性的マイノリティーへの配慮の機運が高まっています。七五三は、三歳、七歳が女児、五歳が男児のための行事であると一般的に考えられているため、「男の子らしく」「女の子らしく」という性に対する固定観念を助長する一面は否定できません。この点、寺院側でも配慮が必要でしょう。先述したように、現在のような七五三という行事が固定化されたのは明治期以降であることを考えると、三歳・五歳・七歳それぞれの機会を男女で限る必要はないでしょう。

先、無言三礼
次、奉請（散華）
次、表白
次、転座
次、説示
次、灌頂洒水
次、三宝帰依
次、同唱十念
次、転座
次、開経偈
次、誦経（焼香）
次、祈願

無言三礼

奉請（散華）

表白（時間の都合で省略しても可）

謹み敬って大悲願王阿弥陀如来、別しては○○・△△両家先祖代々尊霊位の宝前に白して言さく。願わくは六神通力をもって照知し給え。

今現前の○○さん、七（五、三）歳に成長し七五三の佳き日を迎えるにあたり、道場を荘厳し仏前にぬかずく。伏して請い願わくは、阿弥陀如来、別しては両家先祖代々霊位の哀情を納受し給い、○○さんの才徳益々高く息災にして無事成長、哀愍護念し給わんことを。

維時　○年○月○日　○誉○○敬って白す

転座

説示

○○さん、ご家族の皆様、本日は○歳のお祝い、おめでとうございます。日本では伝統的に子供の成長の段階にあわせて髪型を変えたり着物を変えたりして、子どもの成長を祝ってきました。これが七五三という行事の由来といわれておりますが、今日はお寺での七五三です。お子様の成長の大切な節目にあたり、あらためて本尊阿弥陀様にお子様を見守っていただけますようお願いをする、大切な機会となります。

同唱十念

それでは、只今より無事健やかな成長を願い十遍の南無阿弥陀仏をお称えいただき、阿弥陀様にご祈願をしたいと思います。

本尊阿弥陀如来御威光倍増哀愍護念　同唱十念

転座

開経偈

誦経（焼香）般若心経など

祈願

本尊阿弥陀如来、○○・△△両家先祖代々哀愍護念祈願し奉る信心の願主は○○（夫の名前）、○○（妻の名前）、祈願し奉るところは○○（子どもの名前）、身体健全無事成長　無諸障礙哀愍護念

普済偈

同唱十念

摂益文

念仏一会

請護念偈

十念

無言一礼

挨拶

次、普済偈
次、同唱十念
次、摂益文
次、念仏一会
次、請護念偈
次、十念
次、無言一礼
次、挨拶

灌頂洒水（※水瓶での作法です。洒水器でも構いません）

それではまず聖水灌頂を行います。阿弥陀様の前で、この智慧のお水をおつむから注いで、阿弥陀様のやさしい思いやりの心を授かります。それでは前のほうにお願いします。合掌して、おつむを下げてください。

これはこれ聖なる智慧の水なり。今○○さんの頭上に灌がん。願わくは身体健全にして無事成長せられんことを。

弥陀心水沐身頂 南無阿弥陀仏（灌頂洒水）

三宝帰依

それでは、○○さん、これから阿弥陀様に見守っていただけますよう、「明るく、正しく、仲よく」という三つのお約束をしていただきます。「明るく」というのは、「ありがとう」と笑顔で言えることです。「正しく」とは、「ごめんなさい」と素直に言えることです。「仲よく」とは、誰にでも優しくできるということです。それではいまからお尋ねしますから、ハイと答えてください。

○○さん、これから明るく、正しく、仲よくできますか。（はい）

ただいま三つのお約束をして頂きましたので、その証として（　　）（　　）をお授けします。

では席にお戻りください。

事前準備

ここでは、七五三にあたっての
①事前広報　②準備物　③堂内のしつらえについて紹介します。

1 事前広報

お檀家さんなどに対して、事前に広報をすることが大切です。お配りできるパンフレットの例、事前にお見せしておきたいイメージ動画、解説動画を紹介します。

パンフレット例

（ダウンロードして使用できます。寺院名などは各々入れてください）

例①

例②

「お寺での七五三」動画

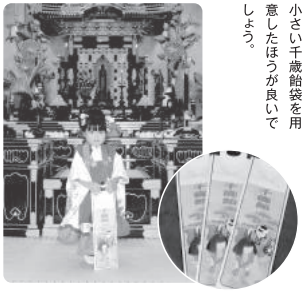
お寺で七五三 イメージ編

お寺で七五三 解説編

2 準備物

◎千歳飴袋

写真撮影のために用意することをお薦めします。インターネットなどで購入することが可能です。三歳児の写真撮影の場合には、サイズの小さい千歳飴袋を用意したほうが良いでしょう。



◎記念品

お守りやお札を用意すると良いでしょう。

＊この他お薦めの記念品については、14頁をご参照ください。

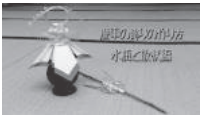
3 堂内のしつらえ

◎朱のろうそくを使用するとお祝いの雰囲気が出るでしょう。

◎本尊前にご先祖様のお位牌をお祀りしましょう。お位牌は、父方母方両家のお位牌を祀るのも良いでしょう。

◎灌頂酒水に用いる水瓶、洒水器には紙飾りを付けると華やかになります。

◎水瓶、洒水器それぞれの紙飾り制作動画を用意しましたので、是非ご参照ください。



慶事の飾りの作り方 水瓶と散杖編

慶事の飾りの作り方 洒水器編

初参り

阿弥陀様への披露と加護の願い

初参りとは、名付け祝い（生後七日目）に次いで行われる儀礼です。名付け祝いは家庭で行う儀礼ですので、家庭の外で初めて行う儀礼が初参りということになります。元来、生後約一ヶ月を迎え産忌が明ける時期にあたり氏神社に参り、氏子に加えてもらうという意味がありました。

この大切な節目である初参りも、近年では様々な変化が生じています。生後一ヶ月ではまだ首も据わっていないということもあり、時期を遅らせ「お食い初め」（百日）と一緒に行うことも増えてきました。この際には食事会、写真撮影とセットで行うことが多いようです。また氏神社ではなく、近隣の有名神社に行く傾向も強くなっています。

人生の始まりに当たっての、大切な儀式である初参りを菩提寺で行うことには、新たな家族を阿弥陀様へ披露し加護を願うという重要な意味があります。また親の立場としても、我が子を初参りに参加させることにより、あらためて親やご先祖様からの命を引き継ぎ「生かされている自分」に気づく報恩の機会ともなるでしょう。

次第

先、奉請（散華）
次、表白
次、転座
次、説示
次、灌頂洒水
次、同唱十念
次、転座
次、開経偈
次、誦経（焼香）
次、摂益文
次、念仏一会
次、祈願
次、普済偈
次、十念
次、挨拶

説示

○○さん、ご家族の皆様、初参りのお祝い、おめでとうございます。本日の初参りは、新しい家族である○○さんが、本尊阿弥陀様に、智慧と慈悲の心をもってお見守りくださいますよう、またご家族様、○○さんに連なるご先祖様に、お子様を見守っていただけますようお願いをする大切な機会です。

祈願

本尊阿弥陀如来、○○・△△両家先祖代々哀愍護念

祈願し奉る信心の願主は○○（夫の名前）、○○（妻の名前）、祈願し奉るところは○○（子どもの名前）、身体健全無事成長 無諸障礙哀愍護念

智慧結び法要

勢至菩薩様
法然上人の
御生涯に因んだ

学業成就法要

智慧結び法要のすすめ

智慧結び法要とは、浄土宗総合研究所が提案する新たな法要で、幼い頃「勢至丸」と呼ばれた法然上人の御生涯と御徳にあやかり、本尊阿弥陀如来および勢至菩薩に学業成就を念じます。

法然上人のご生涯と智慧結び法要

幼い頃、「勢至丸」と呼ばれていた法然上人は、十三歳で比叡山に登り（＊『法然上人伝絵詞』〔琳阿本〕等による。『法然上人行状絵図』では十五歳）、十五歳で得度受戒を受け、十八歳頃までには頭角を現し、後に智慧第一の法然房と呼ばれるようになりました。伝記により年齢は異なりますが、これらの年齢は現在の小学校卒業および中学校入学、中学校卒業および高校入学、高校卒業および大学入学という年齢と重なります。

法然上人はその生涯のなかで、智慧の菩薩である勢至菩薩との対面を繰り返し果たしています。このことから、学業の新たなステップに臨む時期にあたって、本尊阿弥陀如来・勢至菩薩にこれまでの感謝を捧げるとともに、学業成就を念ずるものです。

◆智慧結び法要の特徴

◎実施時期
①卒業式～入学式までの春彼岸の時期　あるいは受験を控えた時期など
②追善法要と併修（時期を選ばず）
（＊①②両方の法要次第を掲載します）

◎受者参加型法要　本尊阿弥陀如来・勢至菩薩と「結ばれる」感覚
受者自らが名号をなぞりお守りに入れ、受者に「誓いの言葉」を述べてもらい、本尊前に「誓いの言葉」を奉献し焼香するなど、受者参加型の法要です。本尊阿弥陀如来・勢至菩薩と結ばれる感覚を抱いてもらう機会としています。

◆法然上人の御生涯（立教開宗まで）原則として、『新纂浄土宗大辞典』を採用

【西暦】	【年号】	【事項】
一一三三	長承二	四・七　美作国久米南条稲岡荘に誕生。幼名　勢至丸
一一四一	永治一	九歳春　父漆間時国、明石定明の夜襲により傷死。叔父の菩提寺観覚の室に入る
一一四五	久安一	十三歳（一説には十五歳）比叡山に登り、西塔北谷の源光の室に入る
一一四七	久安三	十五歳　四月　東塔西谷功徳院皇円の室に移る 十一月　比叡山戒壇院で剃髪受戒 この頃「天台三大部」を読み始め、わずか三年で読破。その努力と俊才ぶりに皇円も舌を巻く
一一五〇	久安六	十八歳　黒谷へ隠遁、叡空に師事、法然房源空と号す
一一五六	保元一	二十四歳　嵯峨清涼寺に参籠、次いで南都蔵俊に広く仏教を学ぶ
一一六一	永暦二	醍醐寺の寛雅に広く仏教を学ぶ
一一六四	長寛二	仁和寺の慶雅に広く仏教を学ぶ
一一七五	承安五	浄土宗を開宗 西山広谷に居を移し、のち東山吉水に移る

事前準備

ここでは、智慧結び法要にあたっての①事前広報　②準備物　③堂内のしつらえ　について紹介します。

1 事前広報

お檀家さんなどに対して、事前に広報をすることが大切です。お配りできるパンフレットの例、事前にお見せしておきたい紹介動画を掲載します。

パンフレット例

（ダウンロードして使用できます。寺院名などは各々入れてください）

例①

例②

「智慧結び法要」紹介動画

2 準備物

◎お守り（学業成就）

事前に購入しておきましょう。

◎お守りに入れる名号札

式の前に、受者に南無阿弥陀仏をなぞってもらい、裏に誓いや願いごとを書いてもらいます。その後、折ってお守りの中に納めてもらいます。

◎受者による「誓いの言葉」

A4用紙に両面印刷し、三つ折りにして用いてください。

3 当日の堂内のしつらえ

◎お守りと誓いの言葉を載せた華籠を、導師が転座した際、受者にスムーズに渡せる場所にあらかじめ置いておきます。

◎本尊前に香炉と三方を置いておきます。

◎朱のろうそくを用いると、お祝いの雰囲気が出るでしょう。ただし、追善供養と併修の場合には、臨機応変に対応してください。

◎本尊前にご先祖様のお位牌をお祀りしましょう。

智慧結び法要

次第

先、無言三礼
次、奉請（散華）
次、表白
次、転座
次、説示
次、灌頂洒水
次、同唱十念
次、誓いの言葉
次、転座

無言三礼

奉請（散華）

表白

謹み敬って本尊阿弥陀如来、観音勢至両菩薩、宗祖法然上人、別しては○○家先祖代々尊霊位の宝前に白して言さく。

今現前の○○さんは本日の智慧結び法要を迎え仏前にぬかずき、これより聖なる智慧の水を授かる。

仰ぎ冀わくは、弥陀三尊をはじめ、法然上人、別しては○○家先祖代々尊霊位の衷情を納受し給い、○○さん、身も心も健やかにして学業成就せしめ給わんことを。

維時　○年○月○日　○誉○○敬って白す

転座

説示

○○さん、ご家族の皆さん、○○さん○○学校卒業△△学校入学を迎えての智慧結び法要、まことにおめでとうございます。

この「智慧結び法要」は、浄土宗をお開きになった法然上人にあやかり、御仏の智慧を授かり、○○さんの輝かしい未来に向かって歩むために、明るく、正しく、仲よく生きることを誓う法要です。

幼い頃の法然上人は大変頭の良いお子さんとして知られ、その名も勢至丸と仰いました。智慧の仏さまである勢至菩薩に因んで頂戴したお名前です。十三歳の時、ゆえあって一大決心をなされ、比叡山に

同唱十念

それでは、学業成就、ならびに身と心の健やかならんことを願って、皆様とご一緒に十遍の南無阿弥陀仏をお称えいただき、阿弥陀如来様、勢至菩薩様にご祈願をしたいと思います。

本尊阿弥陀如来勢至菩薩御威光倍増哀愍護念
同唱十念

誓いの言葉

ただ今、○○さんは仏様からの智慧の水を授かりました。それでは、○○さん、本尊阿弥陀如来様、勢至菩薩様、また今日お集まりの皆様の前で、誓いの言葉を述べてもらいます。

（導）＊受者に「誓いの言葉」を渡す）

では、読み上げてください。

（受）＊受者による誓いの言葉）

「本日の智慧結び法要にあたり、本尊阿弥陀如来様、勢至菩薩様から智慧と慈悲を授かりました。今日の気持ちを忘れず、法然上人を仰ぎ見て、明るく、正しく、仲よく生活し、学業に励むことを誓います。

○○年○月○○日　○○」

（導）（受）＊お守りと、読んだ「誓いの言葉」を載せた華籠を受者が持ち、導師を先導にして内陣本尊前まで進み、本尊前の三方の上に華籠を置く。その後、本尊前で焼香。受者は元の席に戻る）

転座

開経偈

次、開経偈
次、誦経（焼香）
次、祈願
次、普済偈
次、同唱十念
次、摂益文
次、念仏一会
次、自信偈
次、十念
次、請護念偈
次、無言一礼
次、お守り授与
次、挨拶

登りお坊さまになるため勉強を始めます。そして十五歳で正式なお坊さまとなり、十八歳のころには頭角を現し、後に「智慧第一の法然房」とまで呼ばれるに至りました。そして長い間、仏教の勉強と修行を重ねて浄土宗を開き、今日なお多くの人々を導く教えを残されました。

今日の○○学校卒業、△△学校入学を迎えての良き日に当たり、この法然上人のご生涯、ご決心になぞらえ、感謝の気持ちを忘れず毎日を笑顔で「明るく」過ごし、我が身を振り返りながら成長するための道を「正しく」歩み、思いやりと敬いの心をもって「仲よく」生きることを誓い、本尊阿弥陀如来、また智慧の仏さまである勢至菩薩に学業成就をお願いいたします。

今日の智慧結び法要をきっかけに、心豊かな人生を送れるように努力を重ねて参りましょう。

灌頂洒水（＊洒水器での作法です。水瓶でも構いません）

（導）＊受者に導師の前に出てきてもらう）

それではまず聖水灌頂を行います。阿弥陀如来様、勢至菩薩様の前で、この智慧のお水をおつむから注いで、大いなる仏の智慧を授かります。それではこれから作法をいたします。合掌をお願いします。

（順一）
おつむを下げてください。

（順二）
これはこれ阿弥陀如来より給われる勢至菩薩の智慧の水なり。

（順三）
弥陀心水沐身頂　南無阿弥陀仏（灌頂洒水）

（逆一）

誦経（焼香）「般若心経」など

（導）＊この間、導師はお守りへの洒浄作法）

祈願

本尊阿弥陀如来、○○家先祖代々哀愍護念
祈願し奉る信心の願主は○○、祈願し奉るところ○○
学業成就身体健全無事成長　無諸障礙哀愍護念

普済偈

同唱十念

摂益文

念仏一会

自信偈

十念

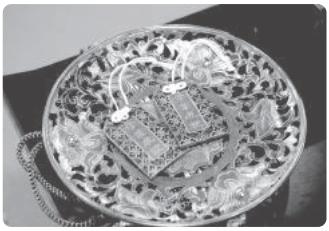
請護念偈

無言一礼

お守り授与

（導）＊導師は本尊前よりお守りを下げ、受者に渡す）

挨拶



導は導師の動き、受は受者の動きを示しています。

智慧結び法要 短縮版

（追善法要と一緒に）

ここでは、追善法要と併修して行う次第を記載します。追善法要終了後、十五分程度でお勤めできる次第となっています。

（追善法要後に）

次、転座
次、説示
次、灌頂洒水
次、同唱十念
次、誓いの言葉
次、転座
次、開経偈
次、誦経（焼香）
次、祈願
次、普済偈
次、同唱十念
次、お守り授与
次、挨拶

転座

説示

○○さん、ご家族の皆さん、智慧結び法要、まことにおめでとうございます。この「智慧結び法要」は、浄土宗をお開きになった法然上人にあやかり、御仏の智慧を授かり、○○さんの輝かしい未来に向かって歩むために、明るく、正しく、仲よく生きることを誓い、本尊阿弥陀如来、また智慧の仏様である勢至菩薩に学業成就をお願いいたします。今日の智慧結び法要をきっかけに、心豊かな人生を送れるように努力を重ねて参りましょう。

灌頂洒水（＊ここでは洒水器を用いた作法となっています）

（導）＊受者に導師の前に出てきてもらう）

それではまず聖水灌頂を行います。阿弥陀如来様、勢至菩薩様の前で、この智慧のお水をおつむから注いで、大いなる仏の智慧を授かります。それではこれから作法をいたします。合掌をお願いします。

（順三）

おつむを下げてください。

これはこれ阿弥陀如来より給われる勢至菩薩の智慧の水なり。

弥陀心水沐身頂 南無阿弥陀仏（灌頂洒水）

（逆一）

同唱十念

それでは、学業成就、ならびに身と心の健やかなることを願って、皆さまとご一緒に十遍の南無阿弥陀仏をお称えいただき、阿弥陀如来様、勢至菩薩様にご祈願をしたいと思います。

本尊阿弥陀如来勢至菩薩御威光倍増哀愍護念　同唱十念

誓いの言葉

ただ今、○○さんは仏様からの智慧の水を授かりました。それでは、○○さん、本尊阿弥陀如来様、勢至菩薩様、また今日お集まりの皆様の前で、誓いの言葉を述べてもらいます。

（導）＊受者に「誓いの言葉」を渡す）

では、読み上げてください。

（受）「本日の智慧結び法要にあたり、本尊阿弥陀如来様、勢至菩薩様から智慧と慈悲を授かりました。今日の気持ちを忘れず、法然上人を仰ぎ見て、明るく、正しく、仲よく生活し、学業に励むことを誓います。○○年○月○日　○○」

（導）（受）＊お守りと読んだ「誓いの言葉」を載せた華籠を受者が持ち、導師を先導にして内陣本尊前まで進み、本尊前の三方の上に華籠を置く。その後、本尊前で焼香。受者は元の席に戻る）

転座

開経偈

誦経（焼香）「般若心経」など

（導）＊この間、導師はお守りへの洒浄作法）

祈願

本尊阿弥陀如来、○○家先祖代々哀愍護念

祈願し奉る信心の願主は○○、祈願し奉るところ○○学業成就身体健全無事成長 無諸障礙哀愍護念

普済偈　同唱十念　お守り授与　挨拶

その他の工夫

記念写真について

近年、子どもの成長儀礼の際には、記念写真が欠かせない要素となっています。撮影者の混乱を避けるためにも、法要中の撮影機会、撮影場所を事前に指示しておくことが重要です。

酒水や記念品授与の際は❶の位置が良いでしょう。家族も写るようにすると雰囲気が残ります。本尊前でお焼香する場合は❷で撮ります。また、お説示中などには❸・❹の位置から全体を撮影しておくことも重要です。

法要後に記念撮影を本堂内で行う時は、❹の位置から「お導師さまと一緒」「家族だけ」「受者一人」など多くの写真を撮影すると喜ばれるでしょう。

小さいお子様は、飽きやすいものです。家族に撮影者の後ろにいてもらうと笑顔も出てスムーズに進むことでしょう。

使用するカメラのストロボ・フラッシュの位置に注意して、縦で撮る時はどこに影が出るかなど、事前に一度リハーサルして確認するといいでしょう。また電池・バッテリーは充電を忘れずに！

法要が
終わった後での
記念写真の例

記念品

七五三や智慧結び法要を執り行った際、記念品を渡すことで、法要自体がより大切な意味を持つものとして心に残るでしょう。

ここでは、浄土宗、および浄土宗関連団体が販売している、記念品に相応しい品を紹介します。購入希望の際は、それぞれのホームページをご参照ください。

また、お寺オリジナルのお守りや鉛筆セットなどを作成してお渡しすると喜ばれるでしょう。

〈 浄土宗公式キャラクター「なむちゃん」グッズ 〉 ※価格は全て税別です。

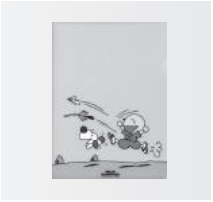
浄土宗文化局

【TEL】03-3436-3700
【FAX】03-3436-3356（注文専用）
【H P】https://press.jodo.or.jp/

マスコットキーチェーン
大きさ約8cm（チェーン除く）。
370円（単品）/3,241円（10個セット）

腕輪念珠
材質:プラスチック 親玉になむちゃんのイラスト入り。
241円（単品）/2,130円（10個セット）

ボールペン 1本ずつPP袋入り。
144円（単品）/1,343円（10本セット）



クリアファイル A4サイズ。1枚ずつPP袋入り。
120円（単品）/648円（10枚セット）

トートバッグ 材質:綿（20×30×10cm）
361円

全国浄土宗青年会

【H P】https://zj.jodo.or.jp/

かんたん腕輪念珠キット 200円

写仏お守りキット 300円

おわりに ～浄土宗の祈願について考える～

子どもの無事成長や学業成就を「祈願」することは「現世利益」（現益）を求めることであり、念仏往生という当益を求める浄土宗の教えにそぐわないと思われるかもしれません。ご承知のとおり浄土宗を含め仏教は煩悩なき仏の世界を指向します。自らの欲望、煩悩を満足させようと「祈願」したところで、所詮、煩悩の世界における満足を求めているに過ぎませんし、そこに救いはない、というのが浄土宗の立場と言えましょう。しかしながら、身も心も安らかな人生を送れるよう神仏に願い祈りを捧げることが信仰心を育む「きっかけ」「縁」となることも否定できません。

本マニュアルが無事成長や学業成就を「祈願」する法要を提唱する目的は、幼児や青少年が浄土宗寺院を訪れる「きっかけ」を創り出し、三宝帰依の精神に触れ、念仏を称え、阿弥陀仏と「縁」を結んでいただくことにあります。祈願は「きっかけ」であり、その先にあるものが目的なのです。

藤堂恭俊台下の論文（「念仏の利益―現世において受ける変・転の妙味―」『教化研究』四号、平成四年）に、「摂取の光明の真只中に摂尽されていても、それに背を向けて、光明の波長を捉えようとしない人にあっては、摂取不捨の光明も不摂取の光明という外ない」という一節があります。無事に成長しても学業が成就しても、阿弥陀仏の光明に背を向けていては何の意味もありません。念仏往生を求める者は摂取の光明に背を向けてはならないのです。念仏往生を求める視点から、無事成長や学業成就の真の目的を問うならば、それは摂取の光明に対して決して「背を向けない」人になるということでしょう。無事成長や学業成就といった現世利益を求める「祈願」法要については、そうした真の目的を踏まえて営む必要があるでしょう。

「子どもの成長儀礼 実践マニュアル」
平成30年3月31日

発　行　浄土宗総合研究所
企画編集　次世代継承に関する研究班
協　力　法式研究班

表紙：阿弥陀仏画 長野教区正源寺 笠井雅裕師
Hello! なむちゃん © 浄土宗／しきしげゆき 1993
写真撮影・提供：菅波 正行
デザイン：TRD Design
印刷：共立印刷社

＊本マニュアル作成に関する詳細（参考文献など）は、当研究班の研究成果報告（「教化研究」29号掲載予定）をご覧ください。

ダウンロード 可能資料一覧

浄土宗総合研究所のホームページからダウンロードできます。（PDF、ワードファイル）
（http://jsri.jodo.or.jp/）

「子どもの成長儀礼 実践マニュアル」

七五三

- お寺で七五三 イメージ編（動画）
- お寺で七五三 解説編（動画）
- 慶事の飾りの作り方 水瓶と散杖編（動画）
- 慶事の飾りの作り方 洒水器編（動画）
- 次第
- パンフレット 例①
- パンフレット 例②
- 初参り次第

＊「YouTube公式チャンネル浄土宗」でも動画をご覧いただけます

お寺で七五三
イメージ編

お寺で七五三
解説編

慶事の飾りの作り方
水瓶と散杖編

慶事の飾りの作り方
洒水器編

智慧結び法要

- 智慧結び法要（動画）
- パンフレット 例
- お守りに入れる名号札
- 受者による「誓いの言葉」
- 次第
- 智慧結び法要短縮版次第

智慧結び法要

おわりに―今期の成果と次期の課題―

これまで各章で述べてきたように、近年急激な過疎化と少子高齢化の影響は、宗派を超えて寺院運営に深刻な影響を与えてきている。当然ながら浄土宗寺院への影響も今後一層深刻と言わざるを得ない

今期においては、幼少年層を抱える人々を対象とし「寺院における子どもの成長儀礼」、とくに七五三と新たな学業成就法要である「智慧結び法要」について研究を行い、本研究班の研究は一応の成果を見ることができた。

七五三は浄土宗や他宗派でもHPなどで紹介していることから分かるように、その意義はすでに認められているであろう。

今回、我々の研究班において、「智慧結び法要」という新たな学業成就の儀礼を提案した。現代社会で子どもたちが成長していく過程には、伝統的儀礼にはみられなかった儀礼が多々ある。たとえば、保育園・幼稚園の入園・卒園、小学校入学・卒業、中学入学・卒業、高校入学・卒業、大学入学・卒業などである。このなかの小学校卒業・中学校入学、中学校卒業・高校入学、高校卒業・大学入学は、法然上人が僧侶として成長する節目にほぼ該当している。

法然上人の成長の過程においては、智慧の菩薩である勢至菩薩と深い関わりを持つ。法然上人の幼名は勢至丸であるし、また法然上人はその生涯において勢至菩薩との対面を幾度も果たしている。この強い絆こそ、他宗教にはない子どもの成長儀礼と宗祖法然上人を結びつける重要な意味を持っていると、われわれは考えたのである。

今回われわれが重視したのは、如何に「寺院における子どもの成長儀礼」の実施率を高めるかであった。そのために「簡単に」「住職一人でも行うことが可能」な実践マニュアルを用意した。実践マニュアルにおいては、実践するにあたって利用できる各種資料をダウンロードできるようにした。

また、一般の人々にその魅力や意義を分かりやすく伝えるための動画も作成した。これまで、写真入りの書籍

による解説本が多かったが、動画を見ながら具体的にイメージして学ぶことができるであろう。

今後の課題としては、子を持つ親が親子で寺院活動に参加することを促すこと、また子どもの成長後、壮年期に入った世代をいかに積極的に主体的に関わらせることができるかについて考えることである。次年度からの調査研究では、そうした世代に焦点を当てて新たな取り組みを探り出していきたい。

（研究代表　武田道生）

参考文献一覧

○法式関係

板倉貫瑞『蓮門小子の枝折』（浄土宗宗務庁、１９７２）

浄土宗総合研究所編『浄土宗法要集上』（浄土宗、１９９０）

浄土宗総合研究所編『浄土宗法要集下』（浄土宗、１９９１）

浄土宗書式文例集編集委員会編『浄土宗書式文例集』（浄土宗、２０１４）

表白回向文集編集委員会『浄土宗表白回向文集』（浄土宗、２００８）

福西賢兆監修『浄土宗慶事法要と祈願』（斎々坊、１９９５）

○七五三に関して

小笠原清忠「七五三祝い」（『儀礼文化』４２、２０１１、儀礼文化学会）

神崎宣武「「人生と神仏」の民俗学（4）」（『學鐙』113、2016、學鐙編集室）
袖山榮輝「七五三1　私心のない無償のきずな」「七五三2　七五三のお祝い」（ともに『浄土宗現代法話大系』pp325―330、pp331―335、1996）
田中祐子「現代の七五三に関する一考察」（『女性と経験』36、2011、女性民俗研究会）
田中祐子「母親たちから聞いた現代の七五三」（『女性と経験』38、2013、女性民俗研究会）
田中祐子「現代の七五三の変遷に関する一試論」（『女性と経験』39、2014、女性民俗研究会）
田中祐子「七五三はどのように祝われてきたか―明治大正期の新聞記事から―」（『女性と経験』40、2015、女性民俗研究会）
田中祐子「明治大正の七五三に関する一考察」（『女性と経験』41、2016．10、女性民俗研究会）
藤木雅清「七五三3　生命あることの不思議」（『浄土宗現代法話大系』pp336―343、1996）
道家とき、佐野恂子、簇美千代「七五三の行事と祝着について（第1報）―歴史的考察」（『日本衣服学会誌』34、1990、日本衣服学会）
宮越俊光「子どもの祝福―祝福式に基づく七五三の祝いの可能性」（『礼拝と音楽』171、2016、日本キリスト教教団出版局）
八木透「七つ前は神の内―七五三の源流」（『日本の通過儀礼』pp24―31、佛教大学通信教育部、2001）
鷲見定信「七五三　育まれるいのち」（『法話の実践―年中行事・人生儀礼編―』pp196―197、浄土宗、1996）
○智慧結び法要に関して（法然上人の生涯に関して）
浄土宗総合研究所『現代語訳　法然上人行状絵図』（浄土宗、2013）

○ほか

藤堂恭俊「念仏の利益―現世において受ける変・転の妙味―」（『教化研究』4、1992）

林田康順「法然上人における祈りについて―特に現世利益をめぐって―」（『日本佛教学会年報』70、2005）